



キリスト教センター通信

2021年11月9日

リレーメッセージ第45号

「逝去者について一恩師のご厚情を想う」

チャプレン司祭 トマス 河村博之

「神は人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初のもの過ぎ去ったからである。」

(ヨハネの黙示録21章4節)

皆さん、対面での授業が始まりました。いかがお過ごしでしょうか。さて、本学では逝去者のために祈る日があるのをご存じですか。「学院逝去者記念礼拝」として11月1日諸聖徒日・2日諸魂日の前後1週間に行っています。学院・高校・大学でお働きになられた教職員、学んだ学生、その家族で前年の10月1日から9月30日までに逝去された方々を憶えて、垂水の学院チャペルで今年は11月1日(月)に行われました。当日は遺族の方々をはじめ、関係者、高校の生徒が集い、祈りを献げた後に懇談の時を持ちますが、今年は感染症防止のため礼拝のみとなりました。

垂水の学院チャペルには逝去者のお名前を掲げた銘板があります。八代学院は創立58年目を迎えました。多くの方々のご尽力・ご厚情のおかげで現在の学院が成り立っていることを実感できます。

六甲アイランドの大学チャペルでは、垂水での礼拝の前に13:00から昼の礼拝で逝去者記念の祈りを捧げます。どなたでも参加できますので、お時間の許されるみなさまのご参列をお待ちしております。

一口メモ ヨシユア前田次郎チャプレンのお話

本学が垂水から移転して来年(2022年)で20年目を迎えます。当時チャプレンだったヨシユア前田次郎司祭が9月20日に逝去されました。神戸聖ミカエル大聖堂での葬儀には多くの学院関係者が参列しました。わたしは遺族のご厚意で、前田司祭が身に付けておられた白のストールを1本いただきました。このストールは、先生がキャンパス移転の起工式と竣工後のチャペルの聖別式で、身に付けておられたものです。

先生の魂の平安とご遺族の皆様のかづけを祈りましょう。



- 新型コロナウイルスの被害を覚えるお祈り -

※ みなさんもお時間のあるときにお祈り下さい

神戸国際大学の学生のための祈り

いつくしみ深い神よ、新型コロナウイルスの感染拡大により、困難な日々、孤独な状況、不安の中にあるすべての神戸国際大学の学生のみなさんのために祈ります。

どうか、彼ら彼女ら一人ひとりの心を支え、お守りください。そして私たちに、あなたの知恵と力が与えられ、今できることを考え、神さまの、み心にかなった正しい行動を心がけることができますように。そして、共に心を合わせて、新型コロナウイルスの一日も早い終息を祈り、求め続けることができますようにお導きください。このお祈りを、主イエスさまの、み名によっておささげいたします。 アーメン

神戸国際大学の学生のための祈り

いつくしみ深い神よ、新型コロナウイルスの感染拡大により、困難な日々、孤独な状況、不安の中にあるすべての神戸国際大学の学生のみなさんのために祈ります。

どうか、彼ら彼女ら一人ひとりの心を支え、お守りください。そして私たちに、あなたの知恵と力が与えられ、今できることを考え、神さまの、み心にかなった正しい行動を心がけることができますように。そして、共に心を合わせて、新型コロナウイルスの一日も早い終息を祈り、求め続けることができますようにお導きください。このお祈りを、主イエスさまの、み名によっておささげいたします。 アーメン

離れている大切な人を覚える祈り

愛なる神さま、あなたは、み手を伸べていつも私たちをお守りくださいます。どうか、遠く離れて暮らす家族や友人を様々な困難な状況からお守りください。そしてこの不安定な世界において、必要な糧が与えられますように。心と体が守られ、健やかに日々を過ごすことができますように、どうかあなたがお支さえください。また、不安の中で医療に従事する人々のために祈ります。どうか一人ひとりの働きが祝福され、感染者の回復を助け、支える力をお与えください。そして彼らが感染から守られ、新型コロナウイルスの終息に向かうことができますように。

この小さなお祈りをイエスさまによってお願いいたします。 アーメン